

## 鮮やかな宇宙 新プロジェクターが映し出す



そらんぽ四日市  
ホームページ

半年間の休館期間中に、プラネタリウムのドームに映像を写し出すプロジェクターを一新しました。これまでは、ランプ式のプロジェクターを使用していましたが、光度の低下に伴い、最新のレーザー光源プロジェクターを導入しました。

レーザー式のプロジェクターのメリットは、なんといってもその明るさです。直径18.5mという大きなドームに映しても、4K映像の精細さを損なうことなく、明るく色鮮やかに映し出すことができます。また、ランプ交換不要、プロジェクターの長寿命化など、事務経費削減にも役立ちます。

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

現在は、当館の自主制作番組「いのちを探して コズミッククルーザーで行く金星・木星」を投映中です。この番組は、小惑星探査機はやぶさの人気番組シリーズを制作した(株)ライブに、CG制作を依頼しました。

新しくなったプロジェクターが映し出す木星の大気や金星の地表の様子な



ど、大迫力の映像を、ぜひプラネタリウムでお楽しみください。

©四日市市立博物館  
／有限会社ライブ

## 古の窯跡の丘、岡山

県地区上海老町の海蔵川と竹谷川に挟まれた台地上に、「岡山」と呼ばれる独立丘陵があります。

ここでは少なくとも7基の窯跡が見つかっており、古墳時代後期（6世紀）から、平安時代末（12世紀）にかけて、約600年もの長い間、断続的に窯が造られていたようです。総称して岡山古窯跡群といいます。

どの時代の窯も、丘の斜面を利用した地下式の登り窯構造となっています。

古墳時代には須恵器という陶質の器、



発掘調査で見つかった窯跡

奈良～平安時代には須恵器の器のほか、瓦塔（寺院の塔を模したもの）、平安時代末には山茶碗（無釉陶器）と呼ばれる製品が作られ、それぞれの時代の技術的な特徴がみられます。

昭和30～40年代の開発計画により窯跡の発掘調査がされましたが、開発の中止に伴い、現在は再び土の下に戻され、その姿を見ることはできません。



岡山丘陵

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873